

2015年度夏季実態調査（北信）行程 およびミニ・フォトエッセー

大矢根 淳

2015年度夏季実態調査（北信）は、佐藤康一郎研究会担当チーフ、同担当の宮寄晃臣所員が中心となって、「北陸新幹線開通の（光と）陰」をテーマに掲げて、緻密に企画を練りあげてくれた。

2015年3月に北陸新幹線が開通して、金沢市や富山市が一躍脚光を浴びるようになり、長野県にも飯山市に駅ができる、新潟県、富山県、石川県との連携が強化され、観光資源の発掘も期待されている。しかしながらその一方で、地域の重要な足である在来線が第3セクターによる経営に切り替わり、運賃の引き上げ等地域住民の負担が増えている、観光業発展という光の部分とともにこうした陰の部分もあって、これらを北陸新幹線開通から時間がたたないうちに総合的に捉えておく必要があるのではないか、というのが今回の実地調査企画の趣意であった。

そこで今回の実態調査は、初日の起点を長野市とした（現地集合）が、これは長野駅が北陸新幹線と第3セクターの鉄道が分かれる始点であることによる。また、長野市には、松代の象山地下壕（いわゆる松代大本營）があり、戦後70年の今年、首相談話が発表されたのを受けて、社会科学研究所においても15年戦争を考える機会としたいと考えた。

初日は、第3セクターしなの鉄道北しなの線沿線にある長野県飯綱町の「サンクゼール」を視察して、サンクチュアリ事業部・三浦秀一氏（JSA認定ソムリエ）にご説明いただき、同社の6次産業化の実態を学んだ。その後、小布施を実踏、JA直売所・アグリ長沼を視察して、国民宿舎松代荘泊。

二日目は、午前中に松代象山地下壕（松代大本營）を視察して、ここでは「松代大本營の保存をすすめる会」の平和ガイド・中村雪子さんに壕の中をご案内いただいた。午後、長野経済研究所において「《リーマンショックその後の円高》ならびに《アベノミクスその後の円安》が長野県製造業に及ぼす影響」をレクチャーしていただき、同研究所の常務理事・事務局長小林明氏、調査部長・小澤吉則氏、上席研究員・糸井裕至氏と議論を交わした。夕方に、善光寺、川中島古戦場を視察して、昨晩同様、松代荘泊。

三日目は、午前中に小川村役場で総務課企画財政係長・峰村長男氏、同主幹・和田優孝氏に西山地域三町村の合併協議会・住民投票の履歴および財政構造についてご説明いただいた。またここでは、分厚い財政関係資料を閲覧させていただく機会を得、これが本号の徐一睿論文としてまとまっている。なお、小川村は平成26年11月22日（土）夜、長野県北部を震源とする

神城断層地震で最大震度6弱を観測していて、訪問当日もまだ、小川村地震災害対策本部が置かれていた。午後は、「株式会社小川の庄」の視察に向かった。ここは、第3セクター方式による地域活性化事業を30年にわたって続けて大きな実績をあげているところで、特に「おやき村」は著名。ここで地元料理の昼食をとった後、おやき村を視察した。

夕方、長野駅で現地解散となった。

以下、上述の行程に即して、現場の写真をあげておくこととする。

2015（平成27）年9月7日

午前：サンクゼール視察

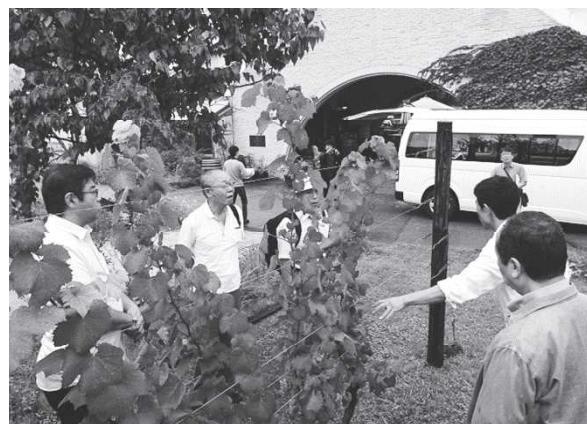


写真1：サンクゼールにてワイン用のぶどう種について説明を受ける



写真2：サンクゼールにて樽詰の所蔵庫を見学

午後：小布施踏査



写真3：小布施の実踏

9月8日

午前：松代象山地下壕（松代大本營）



写真4：地下壕に入る前に全体構造の説明を受ける

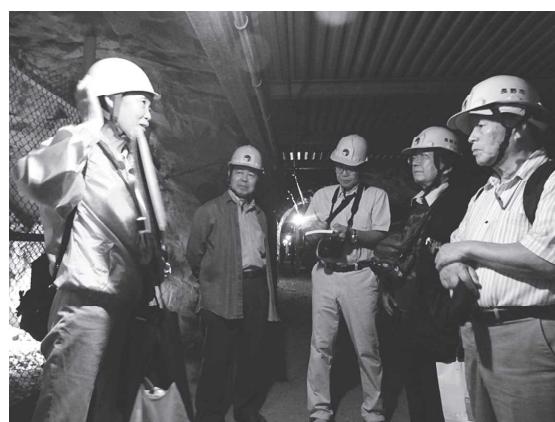


写真5：地下壕の要所要所で説明を受ける

午後：長野経済研究所



写真6：長野経済研究所でのレクチャー／議論の様子

夕方：善光寺／川中島古戦場



写真7：善光寺



写真8：川中島古戦場

9月9日

午前：小川村役場



写真9：訪問当時、震災対策本部が置かれていた村役場

午後：小川の庄／おやき村



写真10：「おやき村」特製



写真 11：「おやき村」での聞き取り調査風景